

改題

土楽たより

どうらく

Kogure 農場 8月号 (NO52)

2014年8月10日 (日) 発行 (毎月10日)

【農暦】上農、中農、下農の諺があるが！

○今日(10日)の朝は、台風11号による豪雨のニュースが嘘の様な青空が広がっていて風もない。四国に上陸したところで午後には日本海に抜けると云う。今週始めから沖縄、九州、四国は台風の影響による豪雨で、ここ数日の積算で2000ミリを超えると土石流の警報や被災のニュースが続いている。2000ミリと云えば2mである。想像を超える。ラジオでは東京と千葉の旭町で豪雨のニュースが今流れている。晴れているのが不思議である。馬の背を分けると云うが、場所、時間で極端に変わる。7日は立秋であった。月明かりの中に鱗雲が見られた。酷暑と豪雨の狭間に暦通りの秋が覗けた。鱗雲が貴重なものに思えて来た。笠間でのことである。今は柏だが外を見ないでいる間に、風が吹き始め雨雲が広がって来ている。台風の影響に限らず、極端で激しく変化する。最近、ゲリラ豪雨などと云われるが、局所的に変わる、観測開始以来の記録と頻繁に言われると怖い。地球温暖化の話題が聞けないのも気になる。

○黒豆と小豆、金時の播種の後には豪雨であった。因果関係は？だが、金時を除いて数株しか発芽しない。遅いと思ったが2度目の播種をした。ご近所の農家も雨で遅れ同日の播種と聞いて安心した。今度は発芽したものの日照りである。熱と乾燥で枯れないか心配になる。雨が降っても暑さで蒸発してしまうのか草刈り機で草刈りすると土煙が上がる。こんな状態にあるのに草の繁茂力は衰えどころか盛んである。発芽しない原因が何にあったのか特定できないでいるが、今は、黒豆や小豆の所だけでも草に負けない様にしたいと思っている。

○遅れ遅れの農作業で草に負けている。遅れ農作業は数倍もエネルギーを必要とする。上農、中農、下農の諺があるが、草を見ずして草をとる上農、でなく、草を見て草を取らずの下農である。熱中症と痛風も気になる。草を見て、イライラする私がいる。繁茂力は半端ではない。直ぐに、後手ごてになる。下農からの脱出には、工夫で時間削減は出来ても、必要農作業時間<実行農作業時間が最低の条件になる。農作業は楽しむを大事にして無理



<手賀沼の畔にある五本木公園>人の手が加わっていない道があるだけの、木漏れ陽がいい。酷暑でも涼、時々、歩いている。2日撮影

しないを基本にしている。実行農作業時間を考えると“農”のスケッチのやり直ししかない。見直しも何度か試みてはいるが、“つぶやき”に書いているが、農に関しても“断捨離”が問われている。後悔でなく反省をしている。中農にはなりたい。

【楽農】ハクビシン?と食い荒らされた!

<ハウス>; トマトの除草など管理、収穫、

<畑A>; トマトなどの収穫、出荷。

・草払い機で除草。

<畑B>; 黒豆、小豆(赤、黒、白)、金時の播種、
(金時以外は蒔き直し)、除草。

*豪雨や乾燥などで?発芽・生育が悪い。

*トウモロコシの周辺の草払いをしたので発見されてしまったのか、翌朝に収穫に行くとハクビシン?に食い荒らされていた(3頁の写真)。成熟のタイミングを見ているのだと聞いたばかりである。



<今朝の収穫物> トマトの赤が特に眩しい。
9日撮影

【楽市】イベント交流・直売など

○その他; 山野草の会(18日)、共生の会(7日)、コミュニティビジネス講座(第1回・9日)に参加など。

*痛風発症し自重していたが元会社の友人と居酒屋へ昔懐かしのニンニクのまる揚を楽しんだ。深夜ラジオで加藤登紀子が新宿ゴールデン街の事を話していたが懐かしく聞いた。大きく変わっていると思うが、飲む機会を楽しみたいものである。

【つぶやき=Tweet】人生の断捨離もしなくては!

○“最近、愚痴やボヤキが多くなりましたね”と先輩の友人から“土楽たより”についての指摘のメールを頂いた。気が多く、片付け苦手の性格である。また、気力と体力の衰えもある。やりきれないで積み残しの作業・課題が多い。書く積りが無くても愚痴でしかない“たられば”が出ているのかも知れない。当に^{まさ}凶星の指摘である。そんな心境にあっつか、“断捨離”や“上中下農の草取りの諺”の文言が、気になった。

○断捨離が流行語になったのは2010年と云うから既に4年経っている。断捨離はヨガの行法から来ていると云うが、実践は難しい。“思い切ってモノを手放すことで、空間・時間・エネルギーにゆとりが出て、それが気持ちのゆとりにつながる。”と書かれている。今までも断捨離をと、片付け、整理整頓には心掛けているが中々進まない。

○人生の断捨離もしなくてはと、本の整理や資料などの整理も少しずつ始めている。だが、思わぬ出会いに作業の手が止まってしまう。こんな時があったのかと写真が、興味をそその内容の本や資料が出て来る。見たり読んだりしてしまう。片付ける積りが逆に乱雑にな

ってしまう事もたびたびである。

○「銀座百点」（13年1月）の“シンボルで絵を読む”見出しを見て、捨てる前にと、つい読んでしまった。“歌舞伎の決まりごとがあるのを、日本人は知っている。お女中が頭を振りつつ「よよよ」と声を出せば、それは嘆きのしるしであり、派手な隈取りでは、赤は正義、黒や青が悪、茶が妖怪の証拠であると、西洋絵画もまったく同じだ。19世紀に印象派が登場する前までは絵にも意味があり、読み解くための「絵の言語」があった。シンボル（象徴）、アレゴリー（比喩）、メタファー（隠喩）、アトリビュート（その人物を特定する持ち物）、エンブレム（記号）と云った絵独自の言語を読むことで、人々は画面に見えているものだけでなく、その奥に隠された画家からのメッセージを探りあてた。”と、ルネッサンスの画家ボッティチェリの「ビーナスの誕生」を解説していた。



＜ハクビシン？に荒らされたトウモロコシ＞
収穫に行き発見。ハクビシンにも取り分が？
残念。9日撮影

○また資料の中から、散文詩の「青春」（サミエル・ウルマン原作長洲一ニ訳）が出て来た。“青春、それは人生の一時期のことにあらず心の在り方をいう”で始まり、“君は、八十歳であろうと、青春のままに死ぬことができる”で終わっているが、長洲一ニは神奈川県知事をした人である。こんな時代状況の時があったのだ。映画“若者たち”が再制作されると云うが、青春の言葉は久しく聞かない。ガラクタの中は、新たな発見や懐かしい思い出が残されている。手は止まってばかりである。感傷に浸るのも良いが程々が良い。今が大事は当然であるが、価値観、情熱、物や社会が大きく変遷して来ている。光陰矢のごとしと昔人も云うが、脅威的な速さである。歩んで来たことを反芻する機会があってもいいと思う。その上で物心の断捨離をしたいものである。

○伯父が先月亡くなった。この散文詩ではないが、人生の多くの時間が青春であった様に見えた。青春に共感した人も多かったのか、現役から久しい時間が過ぎているのだが、参列者が多かった。遺影も良かった。いいものが伝わって来るような気がした。笠間民芸の里の“まちなかカフェ”にはサミエル・ウルマンの「青春」が掲げてあると聞く（講座で）行って見たいと思っている。

**【後記】夏野菜の美味で、夏を楽しみたい。
笠間に、kogure農場にお越し下さい。
【特に編集せずランダムな構成にします】**

発行者；Kogure農場・小暮虎雄
住所；笠間市本戸4201-10
携帯電話；090-9333-4135
メール；torao-k@nifty.ne.jp
HP；<http://homepage3.nifty.com/toragigi/>